

報 告 書

(第1班)

| | | | | | |
|--------------|--|---------|-----|--------|---|
| 開催日時 | 平成25年 2月 4日(月) 午後7時～午後9時00分 | | | | |
| 開催場所 | 竹駒 町 コミュニティセンター | | | | |
| | (班長)小松 眞、(副班長)菅野 広紀、(司会)菅野 広紀 (報告者)及川 修一、(記録者)松田 信之、(幹事)伊勢 純 (幹事)佐々木 一義 | | | | |
| 参加者数 | 25人 | 意見数(のべ) | 32件 | アンケート数 | 件 |
| 主な要望 ・提言等 | <ul style="list-style-type: none"> ・復興の計画期間を8年としている。市長は行く先々で期間について異なる発言をしているやに見える。1年でも早くと思うがどうか。 ・まちづくりは将来の子供達の為にといいが、現在があつての将来、現在の私達の為につくるのではないか。 ・今泉地区に嵩上げをしなくてもいい所があると聞かすが、そのような情報はあつたのか。 ・盛土について、産出される土の量が多く出るとされるが、どのような方法で数値を出しているのか。 ・災害公営住宅を計画しているが、実際に議員の方々は他県にある公営住宅などを視察しているのか。 ・今泉地区のまちの再生として、歴史と文化を重んじて快適で魅力あるまちづくりをしようとしている。具体的に歴史館や美術館など文化施設を建設する計画はないか。 ・嵩上げの高さを8mとしているが、サンプルとしてわかりやすく具体的に提示してほしい。 ・防災集団移転の先行地区として上長部、双六の工事を行うとしているが遅れている理由は何か。 ・ガレキ処理や農地の造成以上に住宅の再建である。高台の造成期間を短縮するようなスピード感を持って取り組んでほしい。 ・防潮堤・水門は12.5m、嵩上げは8m、気仙川堤防はそのまま。気仙川堤防の高さを検討すべきと考えるが、現状の高さでよしとする安心できる根拠は何か。生活の場を8mの嵩上げ地が良いか高台が良いかと問われても、わからないのではないか。 ・全国から支援職員が来ているが、25年度も十分な職員の確保ができるのか。 ・高台の造成を、特定の地区より先行するとか着工の違いを提示すると意向が大きく変化するのではないか。先行するとすればそこに集中してしまう懸念を持つがどうか。 ・「復興計画」の見直しと言う意見も出てきているが、2年も経過する | | | | |

| | |
|------------|--|
| | <p>中で、計画の進捗や検証も含め議会ではどのような議論がなされているのか。</p> |
| <p>所 感</p> | <p>小松 眞</p> <ul style="list-style-type: none"> 各会場において、報告会の在り方に対して要望意見があるが、今泉地区対象の会場から情報提供の場・議会報告会の回数を増やしてとの要望が出された。報告会の回数だけでなく内容の検討についても、地域別の説明資料の工夫や事前に地区の課題の調査などを集約し、地域課題の解決の糸口に繋がる報告会の在り方の検討時期にあると感じた。 前回の報告会の要望に返事が無い。引き継ぎが課題。 <p>及川修一</p> <ul style="list-style-type: none"> 今泉地区を対象とした報告会であったが、他の地区の方の発言が多く、今泉の方からの指摘を受けるなど報告会の周知方法などの見直しの必要を感じた。 <p>壊滅状態となった今泉の高台移転のことが熱心に議論され、議員が知り得る範囲で答弁したが、住民が持つ情報量の方が多く、逆に教えられることが多かった。</p> <p>全体を通して、議会からの報告ではなく、議題を絞っての意見交換の場とすることや周知方法の充実、開催回数の見直しの必要を感じた。</p> <p>菅野広紀</p> <ul style="list-style-type: none"> 会場設定について、私は当初コミセンに拘らず滝の里仮設集会場を利用を提案したが、今後は柔軟な会場設定を考えるべき。 質問事項を文書で提出され、文書回答を求められたことは、全体報告もさることながら個人へ文章で回答するべき。 <p>松田信之</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的にまちづくりに参加している方々の意見であり、様々な観点や視点からも参考とするところが多い。 <p>佐々木一義</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災した人は、住む場所を一日でも早く作ってほしい。事業の進まない原因はなにか、進ちよく状況を住民は、教えてほしいと強く望んでいた。 かさ上げされる高さの目印を示し、地域市民に知ってもらったほうがよい。 議会報告会開催を増やし、市民の声を聴いて行政へ反映させてほしいとの意見に、広聴広報のあり方を検討すべきと思いました。 |

歴史ある今泉の町づくりと、震災遺構のあり方を市は、住民と話し合
ってほしいとの声がありました。

・今泉報告会であるのに、他地区の参加者の発言が長く、主たる今泉
の声が聴が届かないことへの意見がありました。

伊勢純

・非常に広範囲な意見や提言で、議員側の情報では対応できない場面
もあった。土地利用の情報等は変更が必要なものであり、たえず正確
な情報を市民に伝えられるようにしたい。また、今回の議会報告会で
初めて取り組んだ今泉地区の住民を重視しての開催について、参加者
からは「他地区から、どの会場にも参加可能」、あるいは「今泉の人々
の発言こそ促して欲しい」と、相反する意見があった。さらに、今後
の開催には、行政にも議会にも気軽に回数を多くしてほしいという意
見もあった。今後の開催に向けて検討すべき課題と思った。

陸前高田市議会議長 殿

平成25年2月18日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成25年度議会報告会第1班

班長 小松 眞 ㊟